



かい 原 大和
誠友会
(55分)



Rose Expo
FUKUYAMA2025は

問

①1年前イベントの成果や課題は。
②入場料は。また、ターゲットの属性や想定される来場者数は。

答

①5月18日、19日に開催したイベントには、約1万9千人の来場があった。アンケートでは、来年も訪れたいとの回答が8割を超え、手応えを感じている。全国メディアにも取り上げられるなど、大きなPR効果があったものと考えている。また、児童生徒、学生による活動発表のほか、市民・企業提案型事業の認定事業者が出席するなど、みんなで創る大会のイメージが徐々に形になって現れていると感じた。

一方で、会場内の動線や当日のイベント内容の周知などに課題があった。
②入場料は有料とする。来場者は2万人、そのうち市民の来場を7割、市外からの来場を3割と見込む。



開催1年前イベントの様子



たぐ 田 裕司
誠友会
(60分)



地域の防災力の強化は

問

①各学区での防災計画の作成は。

②県が進めている、簡単に作成できるマイ・タイムラインを自主防災組織や防災リーダーを中心に全ての家庭で作成することで、それぞれが居住地域の災害状況や起こり得る災害について考ええるきっかけになると思うが、その周知について県とどのような連携を取っているか。

答

①各地域の自主防災組織を主体に計画策定を進め、2020年度に全ての学区・地区で完成した。現在は津波避難対象の学区・地区で新たな津波避難計画の作成に取り組み、今年度中の完成をめざしている。

②小学校の防災教室や各種防災イベントなどにおいて作成に向けた啓発に努めている。また5月から県の公式LINEを活用してマイ・タイムラインが作成できるようになり、本市でもホームページなどで周知に努めている。



ひろしまマイ・タイムライン



のう 能 正洋
誠友会
(60分)



グリーンな企業
プラットフォームは

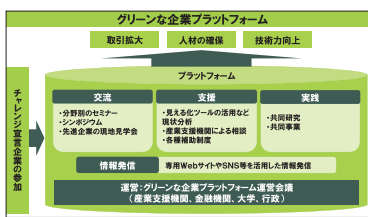
問

スタートさせた狙いは。

答

環境対策、女性や障がいのある方の雇用、働きやすい職場環境の整備など、グリーンな取り組みを意欲的に実施している企業が数多くある一方で、自らの価値に気付いていない企業もある。企業価値を高めるためにも、埋もれたグリーンな取り組みに気付き、見える化する必要があると考える。そして、先進的な企業が中心となり、情報交換や交流、共同研究などを通じて、その取り組みを深化させ、広げていくことにより、企業の魅力や競争力を高め、人材確保をはじめとした経営課題の解決につなげていきたいとの思いから、昨年12月に官民連携で立ち上げた。

*その他、荒廃農地への誘導活動の現状、公共交通空白地域・不便地域の移動手段確保について質問しました。



グリーンな企業プラットフォーム

※マイ・タイムライン：いつ起こるか分からない災害から自分や家族の命を守るための「自らの防災行動計画」のこと。避難先や避難開始のタイミングなど災害時にとるべき行動をあらかじめ決め、時系列に整理することによって、いざというときに、慌てず落ち着いて避難行動をとることができる。